

水の事故は、こんなとき・こんなところでおきています。

■水難事故発生状況(2009年)

※子どもとは、中学生以下です。

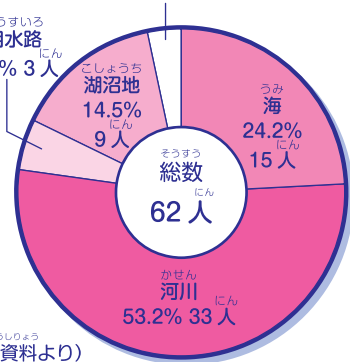
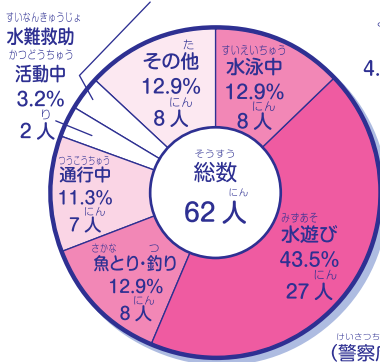
			2009年		2008年		増減	
			総数	うち子ども	総数	うち子ども	総数	うち子ども
発生件数(件)			1,540	236	1,435	214	+105	+22
水難者	水死者	死者	832	61	814	54	+18	+7
		行方不明者	20	1	15	0	+5	+1
		合計	852	62	829	54	+23	+8
	負傷者(人)		243	45	263	54	-20	-9
	無事救出(人)		810	289	551	165	+259	+124
	合計		1,905	396	1,643	273	+262	+123

■水死者の行為別発生状況(子ども)

■水死者の場所別発生状況(子ども)

陸上における遊技スポーツ中 3.2% 2人

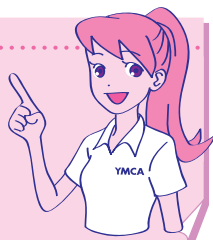
プール 3.2% 2人



(警察庁資料より)

保護者の方へ

水の事故は未然に防止することが最も大切です。事故の多くは、ちょっとした不注意やルールを守らなかったり、また無謀な行為、知識・技能の不足によって発生しています。子どもだけで海や川に絶対に遊びに行かないよう、約束をしておくことが大切です。保護者が一緒にいて、危険な箇所を教えてあげること、また保護者が模範を示すこと、それが事故の未然防止につながる安全教育なのです。



おぼれている人をみつけたらどうするの？

「おぼれている人」や「誤って水に落ちてしまった人」を見つけたときの対処法

①大きい声で助けを呼ぶ

大きい声で近くにいる大人に知らせましょう。

たすけて!!
おぼれて
いるよ!



②近くに大人がいないうきは呼びに行く

近くに大人がいないうきは、呼びに行くようにしましょう。自分が水の中に入って助けようとは絶対にしないでください。おぼれている人に引き込まれて一緒におぼれてしまいます。

※高いところ(陸)から水に落ちた場合は、いきおいで体が沈んでしまい、そのまま浮いてこられないこともあります。その場合は水に落ちた人がどの辺りに沈んだかを覚えておいて伝えるようにしましょう。

③水面でおぼれている場合

水面で体が沈まずに、水面でおぼれている場合は、浮く物(浮き具、板、カバンなど)を投げて、つかまらせてあげてください。長い物(棒、自分の着衣など)を差しのべれば届く場合は、岸の上に腹ばいになり、おぼれている人に差しのべて岸に引き寄せましょう。立ったまま差しのべるとおぼれている人に引き込まれてしまいます。また、腹ばいになり差しのべている場合でも、強い力で水に引き込まれそうになったら、自分の身を守るために手をはなしてください。



保護者の方へ

救助の基本は、救助者自らの生命を守ることです。第1に「決して子どもだけで助けようせず、近くの大人に大声で知らせ、助けを求める」、第2に「付近に大人がいなかった場合、こんな方法が安全な助け方だよ」という順序で教えてあげてください。繰り返し教えてあげることが大切です。

